日本

島崎藤村

しまざきとうそん

明治時代 | 大正時代 | 昭和時代 | 平成

1872年 生 | 1943年 没

時代 明治～昭和時代

新しい詩や小説の創造

島崎藤村は、長野県の馬籠（現在は岐阜県中津川市）で生まれました。そして、10才で東京の小学校に入ってから大学までは、東京で過ごしました。

大学時代は、西洋文学や江戸時代の俳人松尾芭蕉（→188）、平安時代の歌人西行などの古典を熱心に読んでいたといわれています。卒業後は英語の先生をしながら詩をつくり続けました。

一八九七年、教師をやめた藤村は、東京で『若菜集』という詩集を出版します。日本に昔からある七音と五音の言葉を交互に並べる方法を使いながら、言葉の形にこだわらずに、日常的な言葉も用いた詩を書いています。その詩は、「新体詩」とよばれ、ほかの詩人たちに大きな影響をあたえました。

しかしその後、藤村は次第に詩をつくることをやめて小説を書くようになり、『破戒』『春』『夜明け前』など、優れた作品を発表していきます。それらの作品は高く評価され、藤村は、ものごとを美化せずにありのまま書くという自然主義を代表する作家となりました。

▼詩人 ▼作家

重要度 重

日本

聖徳太子

しょうとくたいし

別名 厩戸皇子／豊聡耳皇子

古墳時代 | 飛鳥時代 | 奈良時代 | 平安時代

574年 生 | 622年 没

時代 古墳・飛鳥時代

天皇中心の国をめざす

聖徳太子は、六世紀後半に、用明天皇の皇子として生まれたといわれています。馬小屋の入り口で生まれたので厩戸皇子、また、一度に一〇人もの人のうったえを聞き分けるほど頭がよかったので豊聡耳皇子ともよばれたそうです。

20才で推古天皇を助ける摂政となり、蘇我馬子とともに天皇を中心とする国づくりをしたといわれています。まず、才能や手がらのあった人物を役人に登用するための冠位十二階の制度をつくりました。次に、役人に政治を行うときの心構えや天皇の命令に従うべきだと説いた十七条の憲法を定めました。

また、そのころ中国を統一していた隋という国の進んだ文化や政治のしくみを取り入れるために、小野妹子（→192）たちを遣隋使として送りました。

さらに、仏教を信仰して、その教えを広めることに努め、奈良に法隆寺などを建てました。このため、都のあった飛鳥地方を中心に仏教文化が栄えました。これを飛鳥文化とよびます。

▼皇族 ▼政治家

重要度 必

覚えておこう

法隆寺

六〇七年に聖徳太子がつくったとされる、飛鳥文化を代表する文化財です。法隆寺の金堂などは、現存する世界最古の木造建築として、ユネスコの世界文化遺産に登録されています。